

枝の主日の行列とミサについて（2016/3/20）

1330～1400 告解、ロザリオ・聖母の連祷

1400～

【枝の祝別】

司祭（赤のコープ）と侍者が通常のミサの際のように入堂。

入堂中に聖歌「Ave Maria」（グレゴリオ聖歌）。灌水式なし。

司祭が祭壇前に近づいたら聖歌「Hosanna filio David」を始める。

聖歌が終わったら、司祭は書簡側で祭壇を向いたまま平日調で「Dominus vobiscum」を唱え、次いで祈願を唱える。

＜枝は内陣（祭壇の近く）で白い布の上に載せて準備しておく＞

司祭は、何も唱えずに三度、祭壇近くの枝に聖水をかける。

次に司祭は香炉に香を入れて祝別し、祭壇近くの枝に三度撒香する。

＜灌水と撒香の際に、司祭の両脇に侍者がついてコープの端を持つ＞

【枝の分配】

侍者は司祭用の枝を取り、祭器卓に置く。

司祭は祭壇に上り、中央で祭壇に接吻して、会衆の方を向いて祭壇前で跪く侍者に枝を配る。次いで、司祭は聖体拝領台で会衆に枝を配る。

枝の分配中に聖歌隊が交唱「Pueri Hebraeorum postantes」「Pueri Hebraeorum vestimenta」を歌う。

【聖福音】

＜祭器卓に司祭が手を洗うための、水を入れたボトルと手拭きを準備しておく＞

司祭は手を洗い、祭壇に上り、祭壇に接吻して、香炉に香を入れて祝別する。司祭は Munda cor meum, Jube, Domine, benedicere / Dominus sit in coede meo を静かに唱える。

司祭は福音書側に移動して、ミサ典書に撒香して、福音書を歌う。

＜マテオによる聖福音の続誦（21ノ1-9）＞

【行列】

福音書が終わったら、司祭は祭壇前に下りる。祭壇前で香炉に香を入れて祝別する。

祭壇前で行列を組む。

〈行列用十字架に赤い帯で枝をつけておく〉

「Procedamus in pace」

「In nomine Christi. Amen」

行列の先頭は香炉を持つ香炉係。行列中に交唱を歌う。

「Occurrunt turbae」

「Cum Angelis」

「Turba multa」

「Cooperunt omnes」

王たるキリストの讃美「Gloria laus」

行列が聖堂に入る時(司祭がドアを通る時)、最後のレスポンソリウム「Ingrediente Domino」を始める。

司祭は祭壇に到着したら、書簡側で祭壇の方を向きながら平日調で「Dominus vobiscum」、次いで祈願を歌う。

【ミサ】

司祭は赤のコープから紫のカズラに着替え、ミサが始まる。

灌水式、階段祈祷はない。

聖歌隊が入祭文を歌う。

司祭は祭壇の献香を行う。

ミサ後のヨハネの福音書の朗読はない。

【Benediction】

ミサの終了時刻次第で、Benedictionは省略する。